

堀 左衛門 同  
細井彌左衛門 同  
鈴木權之助 同

### 八 郡奉行支配之儀御定

定

一、能美・江沼兩郡奉行、如前々申付候條、彌諸事可入念事。

一、宿々在々夫・傳馬之儀、無油斷可相改。若夫・傳馬爲申懸者於有之者、其人或は届置、或とらへ、安房守・山城守・因幡守方々可相理事。

一、能美・江沼兩郡諸代官前算用、與村源左衛門申談、可遂勘定事。

一、諸百姓申分於有之者、早速聞届遂穿鑿可令裁許。金澤に百姓不相越、連々可申付事。

一、諸給人と百姓出入於有之者、縱其給人兼而不言通問たりとも、亦は給人より不及斷候共、理非にまかせ令裁許可相濟事。

一、往還道橋修造可申付橋入用銀子、原田又右衛門・副田權左衛門・四井主馬・中村新左衛門四人方より可請取事。付、川除用水跡々之如く可申付事。

一、百姓共無故見立檢地申請事可停止。無見立不叶時分は、見立奉行に申斷、其役人相共見立檢地極上、帳面加判形、百姓共にも見立帳可渡事。

一、荒地見計、大豆・麥・稗類百姓共開作候之様に可申付事。一、諸百姓出銀、家一間に三匁宛可申付。右員數猥不懸申様可入念事。

右之條々不可令違背者也。

寛永十四年三月廿四日

吉田伊織殿

### 九 見立檢地之儀御定

定

一、諸百姓見立檢地請候共、無故見立檢地仕間敷候。若無見立不叶所於有之者、其所之代官申談遂吟味、見立檢地可仕事。

一、領國中定納免相之外、上り免可有之村々彌遂吟味、見立檢地可仕事。

一、藏納、給人地入相之田地、給人免相聞合、其上を以可免定事。

一、村々見立檢地、依怙最負仕においては可爲曲言事。

一、村々廻り候時分、可成荒地所於有之者、算用場に申談宜申付事。

一、用水普請江下之百姓に可申付。大造之普請於有之者、算用場に申談、年寄共可相斷事。

一、所々川除普請郡夫可出。材木入用令吟味、手寄之山より可相渡事。

一、村々見立檢地於有之者、加右衛門先相越見計、惣檢地人可遣之。加右衛門見及上を以、彌可遂吟味事。

一、毎年所々見立檢地、其外令裁許條々、并在々村廻り日數等、帳面に記置可指上事。

一、領國中所々奉行、諸事相談を以可致沙汰事。

一、見立檢地人、於其郡中其身一人馬一疋可乘之。他之郡迄不可乘之。此外雜用一切不可請事。

一、見立檢地之者十人、他國并領國普請役令免許、一ヶ年に一人に付而、銀子十枚宛可遣之事。

一、加右衛門役儀之事、他國普請有之時者五百石引、領國普請役令免許、一ヶ年に金子三十枚宛可遣之事。

右之條々不可有違背者也。

寛永四年三月廿四日

前波加右衛門殿

### 一〇 御算用場勘方之儀御定

定

一、諸代官前算用之事、一ヶ年切に可相究。但、收納米・登米地拂以下、明夏中令中勘定、來々年春中途結解、請帳可差上事。

一、堂形藏納米二萬五千石に定置候。但、依年多少可有之。右入米跡々よく改候故、百姓迷惑仕候由。自今以後不可及其儀。能程に改可納所旨、藏奉行・諸代官に申付候條、可成其意事。

一、堂形藏米拂直段之事、奉行人より相尋儀於有之者、宜